

あいちトリエンナーレ 2013 プロデュースオペラ「蝶々夫人」女中スズキ役

林 美智子 (はやし みちこ) メゾソプラノ Michiko HAYASHI



東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科を経て、新国立劇場オペラ研修所第1期修了後、文化庁芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。

2003年「国際ミトロプーロス声楽コンクール 2003」最高位入賞。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。

その存在は早くから注目を集め、02年二期会『フィガロの結婚』ケルビーノで絶賛を博し、同役は06年の再演、及び07年新国立劇場公演でも演じ、当り役としての評価を不動のものとする。他にも、03年、08年に演じた『ばらの騎士』オクタヴィアン、06年二期会『皇帝テイトの慈悲』セストでの華麗な演唱は話題を呼び、世界の歌劇場を席卷するG.クレイマー、A.ホモキ、P.コンヴィチュニーなどの名演出家たちより国際的評価を得た。09年には佐渡裕指揮『カルメン』（愛知でも上演）

で新たなカルメン像を創り成功を収め、その模様はNHKでも放映された。最近では東京二期会創立60周年記念公演『こうもり』オルロフスキー、佐渡裕指揮『セビリヤの理髪師』ロジーナで好評を博している。

コンサートでも、C. ミョンフン、P. ヤルヴィ、故若杉弘などの著名指揮者や主要楽団と共演しており、近年ではS. カンブルラン指揮読売日響共演「愛と海の詩」(ショーソン)での繊細、且つ表情豊かな歌唱が記憶に新しい。

また林美智子自身を想定して書かれた「演劇的組歌曲『悲歌集』」(詞:林望・曲:野平一郎)や、自ら作詞し野平一郎氏に作曲を委嘱した「夜～La Nuit」を披露するなど、意欲的な取り組みに挑んでいる他、表現者としての可能性を追求する王子ホールでのリサイタルシリーズ「Player」では、常に新たな魅力を創出している。

メディアにも数多く登場しており、「NHKニューイヤーオペラコンサート」には2005年より連続して出演。

CDは、《赤と黒》《地球はマルイゼ～武満徹:SONGS》に続き、2012年2月には世紀末から20世紀初期に至るパリのエスプリを集めた《ベル・エクサントリック～林美智子ベル・エポック歌曲集》をリリース。

二期会会員

公式サイト <http://www.michikohayashi.com/>